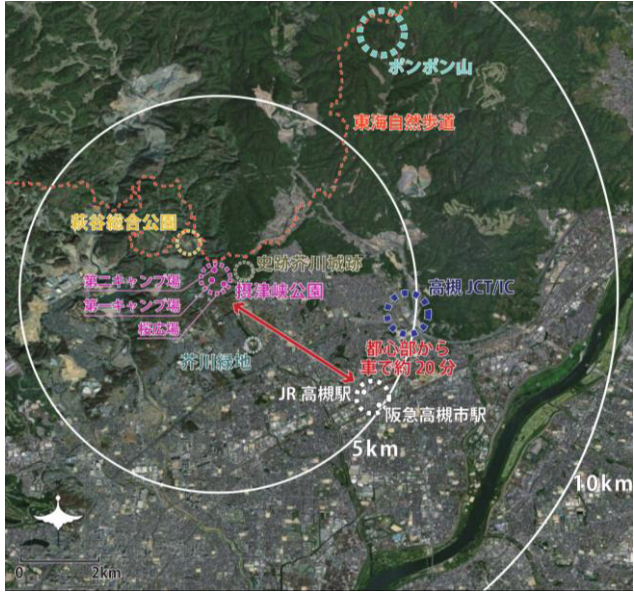


1. はじめに

本リニューアルプランは開設から約60年が経過した摂津峡青少年キャンプ場を摂津峡の持つポテンシャルを活かした、街のにぎわいの創出に資するキャンプ場としてリニューアルするため、整備の方向性やそれを実現するための方策を示すものです。

2. キャンプ場の紹介



対象施設	摂津峡青少年キャンプ場
所在地	高槻市大字原1番地 (地番 大字原3-1,2,4周辺)
面積	約1.8ha (摂津峡公園 42.65ha)
法令上の制限	都市計画(公園)区域、都市公園区域、 風致地区、市街化調整区域、 近郊緑地保全区域、宅地造成工事規制区域、砂防指定地 等
主な施設	第一キャンプ場:6人用テント10張、持込テント サイト4張、ロッジ9棟、研修棟1棟 第二キャンプ場:6人用テントサイト12張 その他:管理棟、ピロティホール、自炊場、キャン プファイヤー場、野外ステージ等

3. リニューアルプラン

<リニューアルの方向性>

- ① 立地や自然環境資源を活用
- ② 近年のキャンプスタイルに適合
- ③ 民間活力を導入
- ④ 摂津峡エリアのにぎわい創出

< キャンプ場の整備方針 >

○ 誰もが気軽に「使いやすいキャンプ場」

日々の暮らしの延長で気楽に來られる、誰もが利用しやすいキャンプ場

○ 心身をリセットできて、気楽になれる「くつろげるキャンプ場」

街なかの喧騒を離れて、利用者に豊かな時間を提供できる、豊富な自然の中の快適なくつろぎ空間を整備

○ 滞在する目的を増やす「開かれたキャンプ場」

摂津峡の環境を活かしたアクティビティ等のイベントを開催し、休日利用のさらなる拡大や平日利用の拡大を目指す

○ 摂津峡の「資産としてのキャンプ場」

市民に愛される持続可能なキャンプ場であり、摂津峡の観光地の拠点の一つとなるように整備

4. 民間活力(運営体制)の検討

効率的・効果的な整備や、多様化・高度化するニーズに的確な対応し、民間企業の投資や多様なノウハウが期待できる官民連携等の様々な手法を視野に入れ、キャンプ関連の民間事業者を中心にヒアリングを行い、民間活力の活用可能性を以下のとおり整理しました。

○キャンプ場は、これまでのグランピングブームによる新しい施設の増加で供給過多な状況

○近年は、キャンプブームが落ち着き、新しく運営を希望する民間事業者は少ない

○リニューアルにあたって、現施設は老朽しており、近年のキャンプスタイルへの対応が必要

○民間活力の導入について、将来的な指定管理制度の導入等を見据えつつ、有効な事業手法を検討していく

5. 事業スケジュール

	令和 7年度	令和 8年度	令和 9年度	令和 10年度	令和 11年度
キャンプ サイト	リニューアル プラン (基本構想・民活)	実施設計	造園・施設工事		民活導入 (指定管理)
建築		基本・実施設計 (建築確認)		建築工事	
管理・運営	高槻市直営		閉鎖 (キャンプ場)		

『 **気軽に來られて、気楽になれる** 』
～豊かな自然で心と体をとき放つ、まちの近くのキャンプ場～

定期的に楽しいイベントが行われていたり、気軽にキャンプやロッジでの宿泊ができたり、気持ちの良いテラス、プライベートな空間、隠れ家感を楽しむことができる場

